



タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己(スタッフ)評価	内部評価(まとめ)	
			できている	ほぼできている	できていない	全くできていない			
I 構造評価 (Structure) 【適切な事業運営】									
(1) 理念の明確化									
サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	5	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の玄関に掲示し、来客、職員が常時閲覧できる ・今後も継続していきたい ・入社時に噛みくだかれた説明あり ・同じベクトルで利用者に関われるように心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の玄関に掲示し、来客・職員が常時閲覧できる ・入社時に噛み砕いた説明今後も継続する。事業所での会議前に唱和することも大事では？と意見があったので定例会時に励行していく 	可
(2) 適切な人材の育成									
専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	2	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に掲示されている ・理念を意識するようにしている ・特徴を認識している ・理念に基づき、在宅ですごせるように支援するよう努力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に提示あり・理念を意識するようにし、定例会時に唱和励行し忘れないようにする。 	可
	3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーター-の判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している	1	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修が多いのがいい ・研修や勉強会に参加し、質問したりしている ・独自で勉強していることもある ・確保されいると思う ・法人外研修も受けてみたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修で対応していないことを、外部研修で充実させていく。最近では、医療的ケア終了、キャリア段位制度導入していくためのアセッサ講習へ2人、外部講師にてコミュニケーション・リーダーシップ等施行予定あり 	可
	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	1	8	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力・特徴にあった利用者への訪問が考慮されている ・管理者は配慮しているし、自分も協力している ・能力が開発されるように配慮している ・能力が開発されるように配慮しているとは、思わない ・現場の意見を聞き、配慮している ・個人のいい能力が発揮できていると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年齢やその人の強みをいかした配置をしている ・新規利用者は、同行訪問で情報共有し技術補填等の機会としている 	可
介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	4	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングを開き情報共有している ・個々で行っている ・タブレットでの情報共有と理解不足時は聞いて確認できる ・会話で情報共有するように努めている ・理解に差があることもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営上必要なことは、臨時CFを開催してケアマネや主治医に発信し協働連携を継続中 ・タブレット利用で共有できることも多いが事務所滞在中に確認作業が大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のために、不定期にケアマネ等多職種を含めてカンファレンスを行うことが多い、と感じる。
(3) 適切な組織体制の構築									
組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	0	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・病欠時に対応している ・特性に応じたケアや配慮はGOOD ・同行研修でカバーしている ・指摘や助言、みんなで話しあいや確認の場も持っている ・介護・看護師 男性・女性を考慮されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・急な休みでも、利用者の特性を配慮しながら、スタッフ調整を行うようにしている ・利用者がスタッフの性別にこだわったり、相性にこだわったりすることもあるが、内容やこちらの状況を加味して対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の急な休みの場合も調整して利用者に迷惑をかけないように調整を行っているのがわかる ・24時間サービスを提供できる体制ができている

タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己(スタッフ)評価	内部評価(まとめ)	外部評価
			できている	ほぼできている	とがきていない	全くできていない			
介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	1	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 全体ミーティングで共有する 助言を聞き、ケアの向上につなげている 取り組みがサービスに反映されるよう、努めている 改善策の提案が伝わっておらず、対応できていないと感じることがある 	<ul style="list-style-type: none"> 介護・医療連携運営会議開催後は、きちんと報告会を設けて伝達するようになっている 運営会議にスタッフも参加させる 	<ul style="list-style-type: none"> 役所平良さんより、発表(報告)もスタッフさんに経験させたいです。とアドバイスあり。
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	2	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> タブレット利用中 ケアマネを通して関係者との連絡をとることもある 情報共有はできているが、管理が必要だと思うことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して(タブレット)、情報共有や連絡等励行中 	可
(5) 安全管理の徹底									
職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	3	0	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 非常時(災害時)の対応は、臨機応変にトリアージ行っている リスクマネジメントを理解する 台風等、全体での情報の共有に時間がかかることがある 対応策はあるが、もう少し具体的にシュミレーションした方がいいと思う 移動時のトラブルや災害予報に関しては対応できていると思う 	<ul style="list-style-type: none"> 台風時は2人訪問で対応しながら利用者に応じて頻度調整する 交通安全研修は1回/年開催している BCPは策定中 	<ul style="list-style-type: none"> 約所平良さんより:定期巡回でも災害時に備えて3日分くらい備蓄品を用意してもいいのでは?とアドバイスあり
	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	4	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> カルテは施設し情報漏洩予防している タブレットも暗証番号で管理され情報漏洩予防している 情報の取り扱いについて、入職時に具体的なオリが必要と感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて、オリエンテーションを1回/年励行、適宜対応中 	可
II 過程評価 (Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成									
利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	2	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズにより提案されている 情報収集・アセスメントし、サービス開始してから、ニーズに沿うよう変更している 	<ul style="list-style-type: none"> 時間やケア内容等可能な限り利用者ニーズを優先して対応し、状態変化時は評価修正している 	<ul style="list-style-type: none"> 継続で月1回または、利用者の変化に応じてケアを継続
	12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つぎ合わせ等が行われている	4	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングで共有している 看護からの情報も活用・共有している タイムリーの情報交換できている 介護・看護で細目に話し合いができています 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有できているが、病院からの利用開始時は面会できていないこともあり、退院後情報収集で立案することが多々あり 	<ul style="list-style-type: none"> 継続
利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	2	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 居宅のケアプランを元に計画・評価修正している モニタリング及び意見交換しながらできている 利用者の残存機能を活用しつつ、支援している 	<ul style="list-style-type: none"> 心身機能の回復に焦点を当て配慮しながらアセスメントを行うようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回のアセスメントを継続
	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	1	7	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 現状維持にならないように長期目標に掲げてADL低下しないように努力している 現状維持にならないように長期目標に掲げてADL低下しないように努力している 日々 先を見据えて行動するように心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> 転倒転落等を含め、中長期的な計画になるよう心掛けていく 	<ul style="list-style-type: none"> 転倒・転落の予防を立案する

タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己(スタッフ)評価	内部評価(まとめ)	外部評価
			できている	ほぼできている	とできていない	全くできていない			
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し									
計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	6	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の急な変更は、厳しいときもあるが、臨機応変に対応している ・排便や摘便なども臨機応変に対応している ・利用者の変更の希望にも柔軟に対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応しながら、必要時は定期訪問の時間や内容をスライドさせていくような対応をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態に応じて可能な限り対応する
継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	4	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・変化があれば計画書も変更している ・日々のモニタリングや情報共有・計画反映がしっかりできている ・利用者の変化は、適宜話し合いができていないため、早期把握できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜アセスメントを行い、利用者や家族の意向を聞きながら、訪問内容や時間を調整している 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期訪問・随時訪問時にモニタリングを行い、随時計画の見直しを行っている
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供									
介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている	5	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医療行為が時間帯のケアは看護が訪問している ・医療的ケア面での看護のバックアップがGood ・同時間に2者訪問するときもあるが、各々が専門性を活かして訪問できている ・利用者の状況に合わせて可能なかぎり対応している ・明確な役割分担はないが、お互いの役割は理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調に変化があれば、その場で看護に連絡し対応してもらう ・今後予測される病状の変化等はミニ勉強会を開き悪化予防。早期発見に努めている 	可
看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	3	6	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行われていると思う ・処置や観察事項など看護から指導を受けて実施している ・利用者の変化に応じて看護から適宜指導・助言あり ・モニタリングはできているが、計画への反映は不十分だと思う ・増強悪化目的の指導ができるようにしたい ・指導・助言いただいています 	<ul style="list-style-type: none"> ・病状や観察ポイント等の確認や指導も豆に行い、ケアに反映している ・介護者より週末期ケアについてリクエストが勉強会を行った 	可
(4) 利用者等との情報及び意識の共有									
利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	2	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・時折、勘違いされている方もいるので、再度説明等行っています ・管理者から説明等行なわれている ・説明は行っていると思うが、伝わっていないのでは、と思うときがある ・説明していると思うが、理解には差があると思う ・事前の情報が少なく、話し合いができていない、と感じることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始の情報伝達不足の声があったので、情報共有方法を改善し、ホワイトボードに書く、タブレットに書くとした。 ・サービス担当者会議については、口頭報告だったが、会議の議事録を1週間ボードに掲示することで、共有・浸透してし、情報が共有できている 	可
利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	2	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・共通認識ができるよう説明している ・利用者の理解能力に合わせて説明することを心掛けている ・毎月行っている ・計画書を読み合わせしたときに、説明するようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護は毎月していたが、介護計画は、1月から担当を決めて計画立案・記録・評価を3回/年行うようにした 	可

タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己(スタッフ)評価	内部評価(まとめ)	外部評価
			できて いる	ほぼ できて いる	と でき てい ない こ	い 全 く で き て い な			
	21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	2	6	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスをしていての変化などを家人に確認し、内容を適切なものにするために話し合をする ・家人とはノートを介して情報共有している ・家族や利用者から相談があれば管理者へ報告・周知・共有している ・些細な変化も家人には伝えている ・変化時は報告・相談しながら対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に変化があるときは、些細なことでも家人やケアマネに伝えて対応すべきことなどを話し合ったり、必要時主治医へ連絡している 	<ul style="list-style-type: none"> ・西平さんより質問: '共有' という言葉が頻繁にでるが、そんなにできていないんですか? と一紙面だけでなく、メールや電話もフル活用して情報伝達する、という意味です(上原)
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案									
	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	1	5	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・時折、利用者情報を提供しても動いてくれないケアマネもいるが、それ以外は共有できていると思う ・共同で決められている ・管理者とケアマネ調整している ・できているが、ケアマネによって、差がある ・変化があれば相談している ・変更や変化があるときは、ケアマネに報告してケアプランに反映させたりしている ・情報共有を心掛けているが、ケアマネの質にもむらがあると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなことでも、即時ケアマネに情報提供し、ケアプランへの記載を検討してもらい、又、管理者だけが知るのでなくおプレーターやスタッフレベルで共有できるように努める 	可
	23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	2	5	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の変化があれば話しをし、提案を行っている ・行っていると思われる ・自治会の弁当などをもらっているケースがある ・心がけている ・提案・検討は行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の関係性から近所の方と交流したり、自治会のサークル活動に参加したり活用している 	可
定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	4	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に会議が行われ、情報提供・共有できている ・コロナでサビ担が行えないときは、文書やZOOM、電話などで対応した 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有と協働を意識して情報伝達している。 ・コロナ禍で直接あえなくても電話やFAX、メール等利用して対応している 	可
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討									
	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	0	5	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしているかわからない ・CM、FA、スタッフ間で必要に応じサービスを検討している ・問題提起で話題になるが、実際にはつなげられていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報がスタッフに浸透するように記録を充実させていく ・インフォーマルサービスについては利用者の圏域の訪話に相談している 	可
	26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	2	4	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院時は、こまめに連絡し切れ目のない介護を行っている ・退院前、利用開始前に情報共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を心がけるが、面会もができないためサービス開始してわかることも多い 	可

タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己(スタッフ)評価	内部評価(まとめ)	外部評価
			できて いる	ほぼ できて いる	と が 多 い こ こ	い 全 く で き て い な			
多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)	0	2	3	0	・サビ担等の情報共有は足りていないが、日常的な共有はやや不足しているか ・事業所全体で地域を支えられるようにできればいいと思うが、何をしたらいいかわからないこともある		可
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	2	5	1	0	・行われている ・HRや事業所内に掲示し知らせている ・今後、さらに積極的に行いたい		
	29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	1	4	3	0	・HRや事業所内に掲示し知らせている ・もう少し努力が必要 ・把握できてない		
(2) まちづくりへの参画									
行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	0	3	6	0			
サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	3	2	3	0			
安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている(※任意評価項目)	0	2	4	0	・どのようにおこなわれているかわからない ・街づくりに係る問題認識を理解していない		
Ⅲ 結果評価 (Outcome)									
サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	0	5	0	0			
在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	4	4	0	0			